

2021年2月 星空案内



星空の暦



13日、14日頃 三日月と地球照

13日の日の入り後20分から30分が過ぎた西の空にて、地平線に近い低い位置に月が見えてきます。前日の12日に新月を迎えたばかりで、かなり細い月となります。地平線近くまで開けた場所で、ぜひ双眼鏡を使って観察してみましょう。

また、14日は新月から数えて3日目の月、三日月が見られます。実際の三日月を観察してみる良い機会でしょう。このとき、月の暗い部分がうっすらと光っている様子が見えるでしょう。これを地球照といい、地球が反射した太陽の光によって月の暗い部分が照らされるために起こります。こちらもぜひ観察してみてください。

18日、19日頃 月と火星が接近

西の空の高い位置に火星を見ることができます。18日、19日になると火星に月が接近します。また、2月は南から南西あたりに冬の星座が輝いています。そのうち、オリオン座のベテルギウスと、おうし座のアルデバランが、火星の近くで赤く輝いています。赤く輝く星が三つ並び、さらにその近くで月が輝く様子を観察してみてください。

カノープスを見つけよう

りゅうこつ座のカノープスは、おおいぬ座のシリウスに次いで、全天で2番目に明るい星です。しかし、日本では、その高度はピーク時でも大変低く、福島県より南の地域で見ることができます。夜更け前に、南の空が開けた場所で探してみましょう。

今月の星座

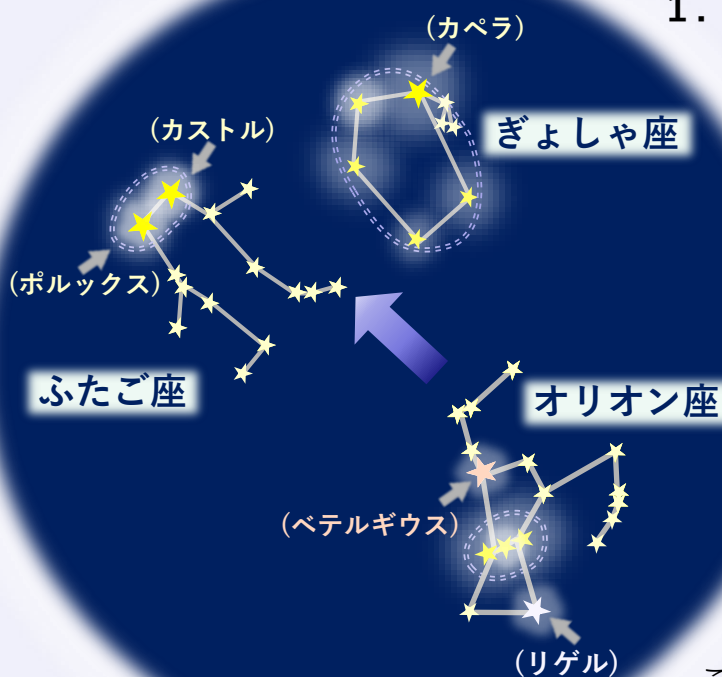


★ 今月は、明るく輝く星を数えながら、星座を探してみませんか。

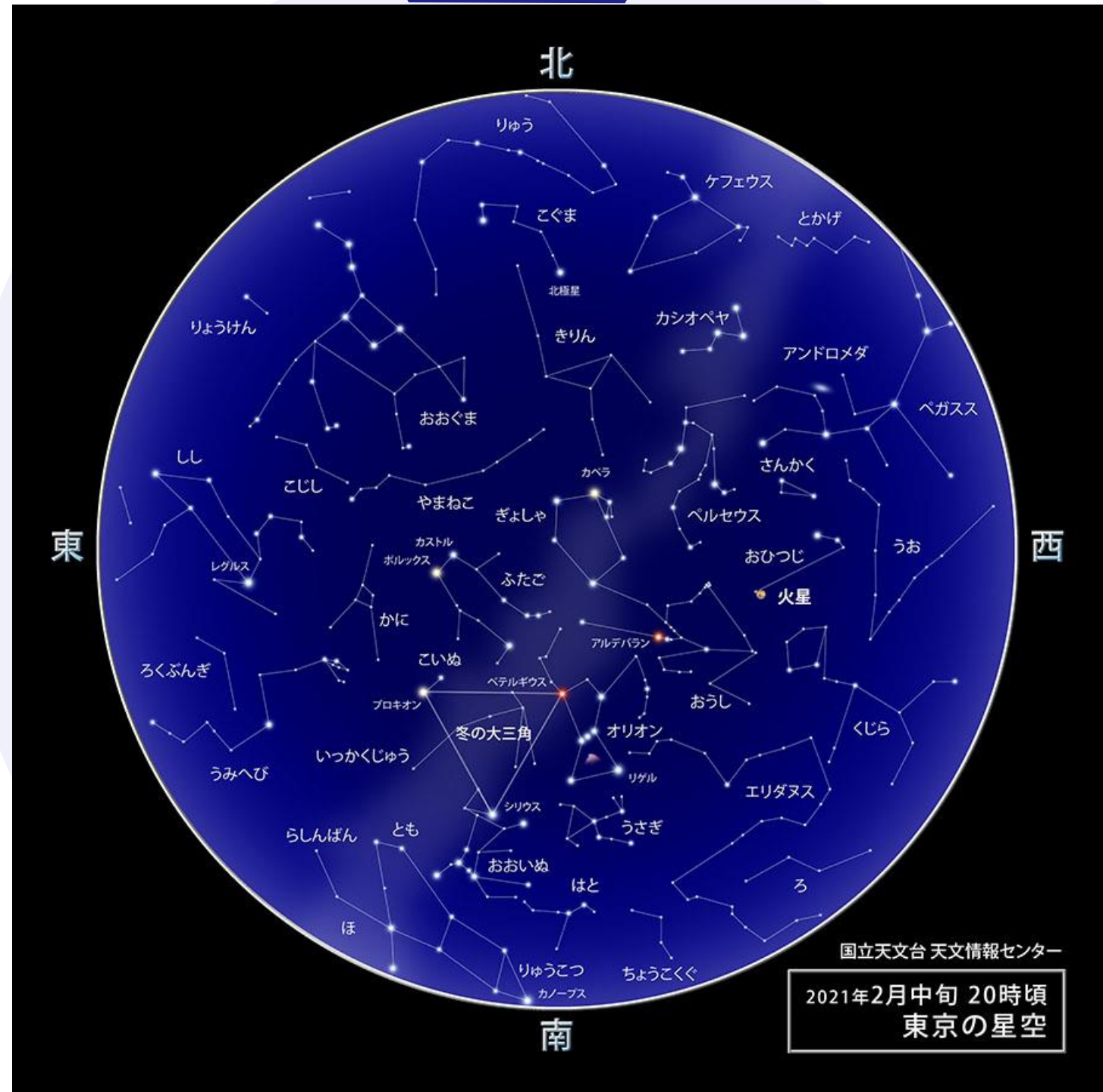
- まずは**オリオン座**を探します。ギリシア神話では勇敢な狩人として描かれていますね。その腰のあたりには**3つの星**が並んでいます。日本でも、「三つ星」として親しまれてきた星です。また、2つの1等星も探してみましょう。その右腕には、赤く輝く**ベテルギウス**、左足には、青白く輝く**リゲル**が見つかります。

- 3つの星からベテルギウスの方へ視線をずらすと、明るい**2つの星**を持つ**ふたご座**を見つけることができます。星の名前は、モデルとなった仲良し兄弟からとって、**カストル**(兄)と**ポルックス**(弟)といいます。

- ふたご座の右隣りには、将棋の駒のような**五角形の星**の並びを見つけることができます。こちらは**ぎょしゃ座**。馬車を作ったともいわれる**王様の星座**です。5つ星のうち、カペラは1等星です。



今月の星空



国立天文台 天文情報センター

2021年2月中旬 20時頃
東京の星空

季節の小話



太陰太陽暦（いわゆる旧暦）にて用いられていた、季節やその移ろいを表すための言葉。現在でも、よく目にしますね。

二十四節季・雑節

節分 (2日)	雑節	季節の分かれ目を意味し、四季それぞれにありました。江戸時代以降は、特に、立春の前日を指すようになっていました。
立春 (3日)	二十四節季	寒さが峠を越え、春の気配が感じられる頃。
雨水 (18日)	二十四節季	陽気がよくなり、雪や氷は溶けて水になり、雪は雨に変わる頃。

お誕生日の星座

- * **みずがめ座** (1月20日～2月18日頃)
水瓶を抱える少年の姿を表した星座で、水瓶の“三ツ矢マーク”が目印です。幾つかの流星群が見られることがあります。
- * **うお座** (2月19日～3月20日頃)
2匹の魚が紐でつながれた姿で描かれています。4等星以下の暗い星から作られていますが、ペガサス座のそばで輝いています。